

# 高取町土佐街道周辺及び高取城跡周辺地区 まちづくり基本構想

## 目次

1. 高取町の概要	1
2. まちづくり基本構想の基本的な考え方	6
3. 地区の概要	7
4. 地区の課題整理	15
5. コンセプト、目標	17
6. 基本方針	18
7. 基本となる取組	19
8. 基本構想図	20

# 1. 高取町の概要

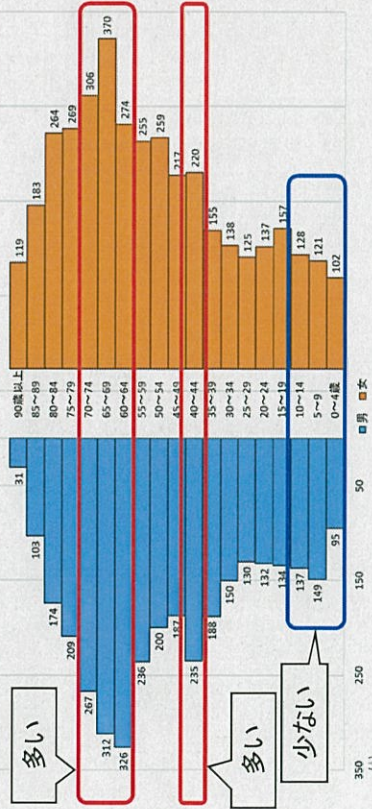
## ■ 人口

- 年代別人口は、60歳代～70歳代前半の層と現在40代前半となる第二次ベビーブーム世代が多い。年少人口は少なく、少子化の傾向にある。
- 総人口は、戦後微増したが、その後は減少傾向にある。

総人口	男	女
7,195人	3,396人	3,799人

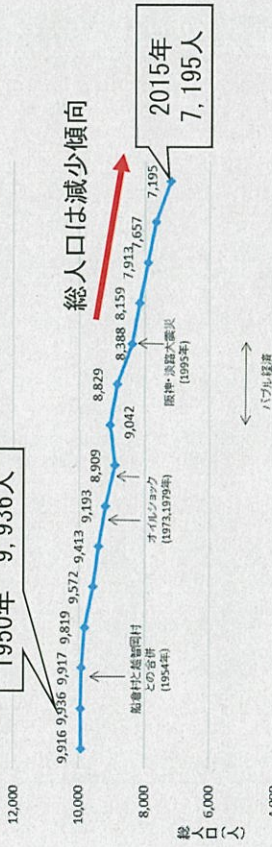
資料：国勢調査（2015（平成27）年 10月1日現在）

## ■ 年代別人口構成



資料：国勢調査（2015（平成27）年 10月1日現在）

## ■ 総人口の推移



資料：国勢調査（1950～2015）  
 \*1947,1950年は高取町は、高取町の合併後となる。  
 \*1947,1950年は高取町は、高取町の合併後となる。

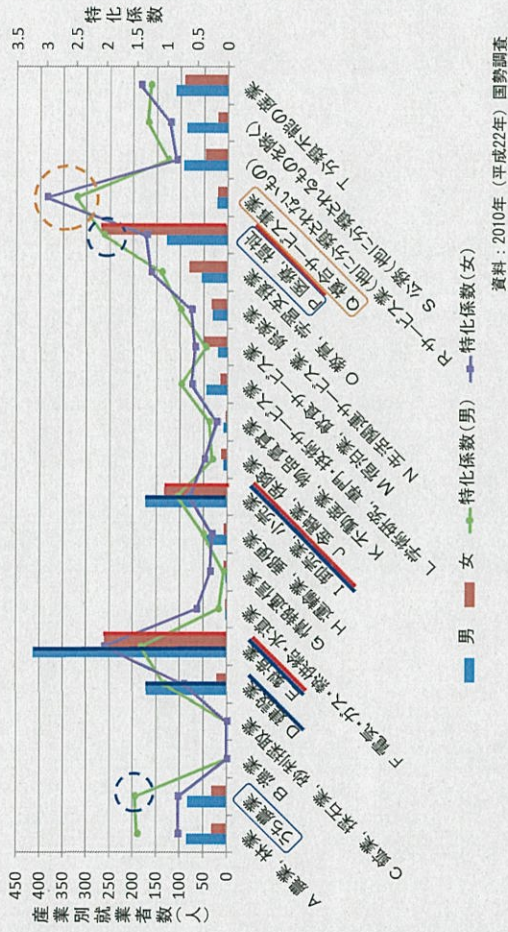
資料：1960年（昭和35年）以前は国勢調査、1965年（昭和40年）～2010年（平成22年）は「奈良県推計人口調査」（奈良県統計課 各年10月1日現在）、2015年（平成27年）は国勢調査（10月1日現在）

## ■ 産業

- 男性は、製造業、建設業、卸売・小売業の順に就業者数が多く、女性には製造業、医療・福祉、卸売・小売業となっている。
- 特化係数※をみると、男女とも複合サービス業（郵便局、農協等）、製造業が高く、男性では農業、医療・福祉で高くなっている。
- 一方、高取町の主要産業である製造業（葉産業）は、高齢化が進行しつつあり、農業も後継者不足等による耕作放棄地が増加している。

※ X産業の特化係数＝高取町のX産業の就業者比率/全国のX産業の就業者比率

## ■ 従業地による産業別就業者数と特化係数

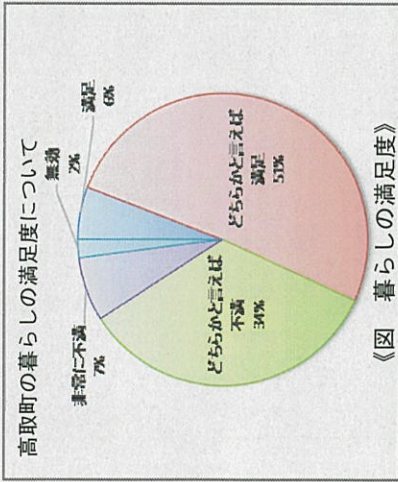


脅威：人口減少、少子高齢化が進む。  
 産業の後継者不足が進む。

# 1. 高取町の概要

## ■ 住民意識

■ 暮らしの満足度について  
 住民アンケートでは、高取町での暮らしの満足度は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と答えた人が最も多く、約6割を占めるが、約4割は不満と回答している。



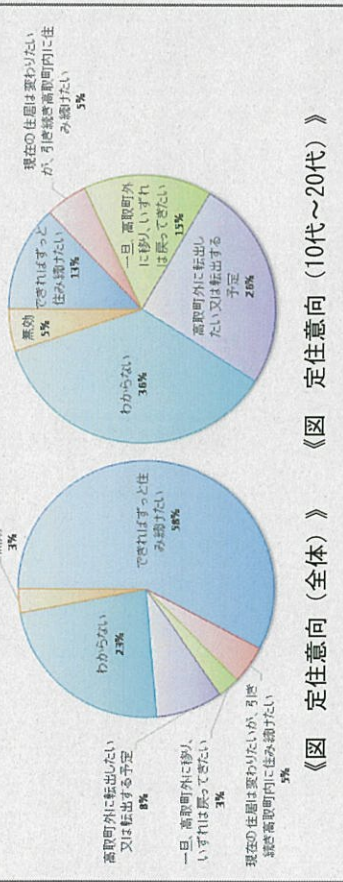
《図 暮らしの満足度》

資料：「高取町人ロビジョン」(平成28年3月 高取町まちづくり課)

## ■ 定住について

- 定住・移住について、高取町に「住み続けたい」と回答した人は多いが(約60%)、「転出したいた又は転出する予定」と回答した人も一定程度いた(約10%)。10代~20代だけで集計すると、「わからない」、「転出したいた又は転出する予定」と答えた人が多く(約60%)、若い人は転出意向が強いことが伺える。
- 転出意向の理由では「買物等日常生活が不便だから」「交通の便が悪いから」「仕事をする場所から遠いから」が多く、若い世代の転出抑制や町内での暮らしやすい環境整備に取り組み必要がある。

あなたは高取町に住み続けたいと思いますか



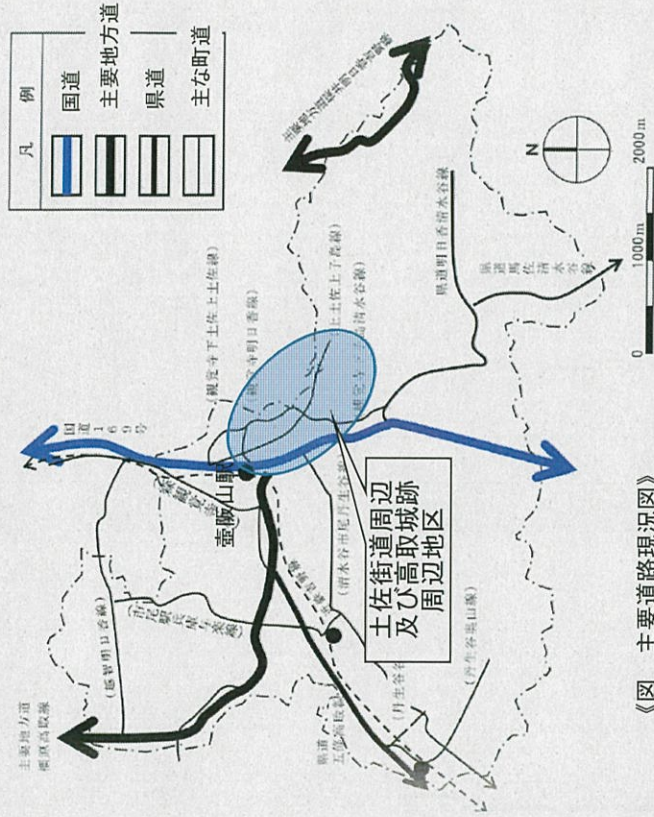
資料：「高取町人ロビジョン」(平成28年3月 高取町まちづくり課)

脅威：日常生活の不便等を理由に、10~20代の転出意向が高まっている。

## ■ 交通

### ■ 道路

- 町の中央を南北を国道169号が通っており、これに主要地方道、県道、町道が繋がり道路網が形成されている。周辺地域から高取町へは、国道169号及び近鉄吉野線が主要な交通手段となっている。
- 土佐街道(町道：上土佐上子島線)は、生活道路と観光景観道路の両面の特性を有する路線となっている。



《図 主要道路現況図》

資料：「高取町総合計画」(平成18年3月 高取町)

### ■ 鉄道

- 大阪中心部へ、約1時間でアクセスすることができる。
- 町の中央を南北に近鉄吉野線が通っている。町内の駅は、壺阪山駅、市尾駅、葛駅の3駅。壺阪山駅が、町役場など中心地に近く、町の玄関口となっており、年間40万人強の利用がある。

強み：大阪中心部より、約1時間の時間距離に位置する。

# 1. 高取町の概要

## ■ 奈良県の観光動向

### ■ 奈良県延べ観光客推移

- 奈良県の観光客数は、平成27年は約4,146万人で前年比335万人の増加である。平成23年以降、増加傾向が続く。



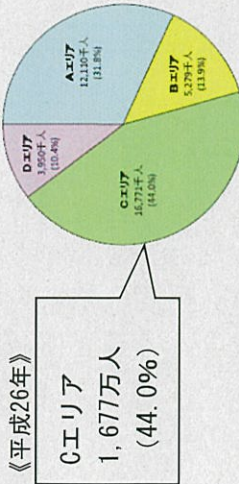
H27年  
4,146万人

資料：「奈良県観光動向調査報告書」(奈良県観光局からの観光力向上課)

※1：集計方法の要奥

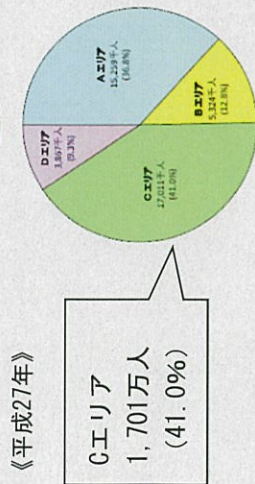
### ■ エリア別観光客数

- 高取町が属するCエリアの観光客数は、平成27年は1,701万人で、奈良県内の41.0%を占め、最も多い。
- Cエリアは前年比で24万人の増加である。



《平成26年》

Cエリア  
1,677万人  
(44.0%)



《平成27年》

Cエリア  
1,701万人  
(41.0%)

資料：「奈良県観光動向調査報告書」(奈良県観光局からの観光力向上課)

強み：高取町を含む周辺地域の観光客数は奈良県下で最も多い。

機会：奈良県では、近年、観光客が増加傾向にある。

## ■ 高取町の観光動向

### ■ 高取町の観光客数の推移

- 高取町の近年の観光客入込客数、約10万～12万人程度である。
- 高取町への観光客入り込み数は、奈良県Cエリアの総観光客数の1%程度である。



H24～H27年、観光客数合計

平成27年 9万7千人

平成24年 12万人

\* 南法華寺(壺阪寺)、夢創館への観光客数合計値

### 《図 平成24年～27年 観光客数の推移》

### ■ 高取町 主要施設における月ごとの観光客数の推移 (平成27年)

- 月ごとの観光客数の推移では、壺阪寺は5月、11月に多い。夢創館へは雛めぐりイベント実施期間の3月が、14,090人と突出して多く、次に10月、5月と続く。

- その他、高取町、町家の雛めぐりやたかとり城まつり等のイベントもあり、全体としてはもう少し観光客は多いと考えられる。



《図 月ごとの壺阪寺観光客数》

《図 月ごとの夢創館観光客数》

資料：高取町

弱み：周辺地域の観光客数に対し高取町への観光客数は少ない。イベント等の時期には多くの観光客が訪れるが、年間を通じると集客力は弱い。

# 1. 高取町の概要

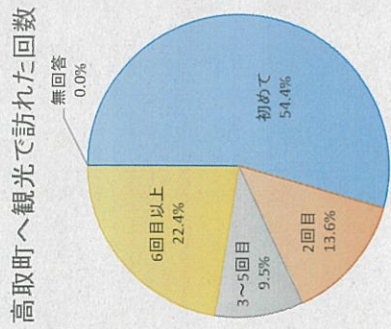
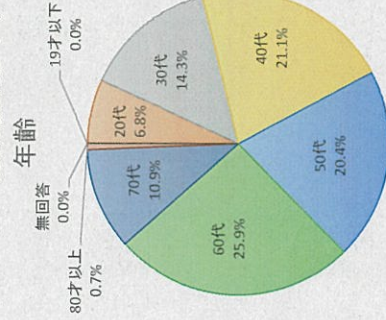
## ■ 観光客アンケート 結果

### 調査概要

- ・ 調査日：平成28年5月28日（土）、平成28年6月4日（土）
- ・ 調査場所：夢創館、わくわく市場、砂防ダム、壺阪寺
- ・ 調査方法：調査票を用いた対面によるヒアリング
- ・ 調査対象人数：147人

### A 客層について

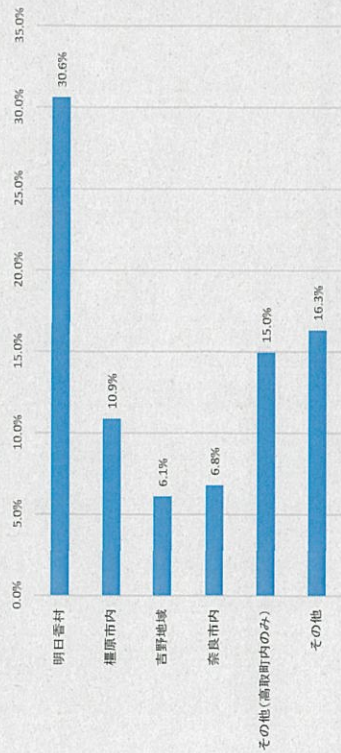
- ・ 若い世代が少ない。夫婦で来る二人客、高取城跡を目指す男性一人客が多い。
- ・ リピーターは比較的多い。



### B 周遊について

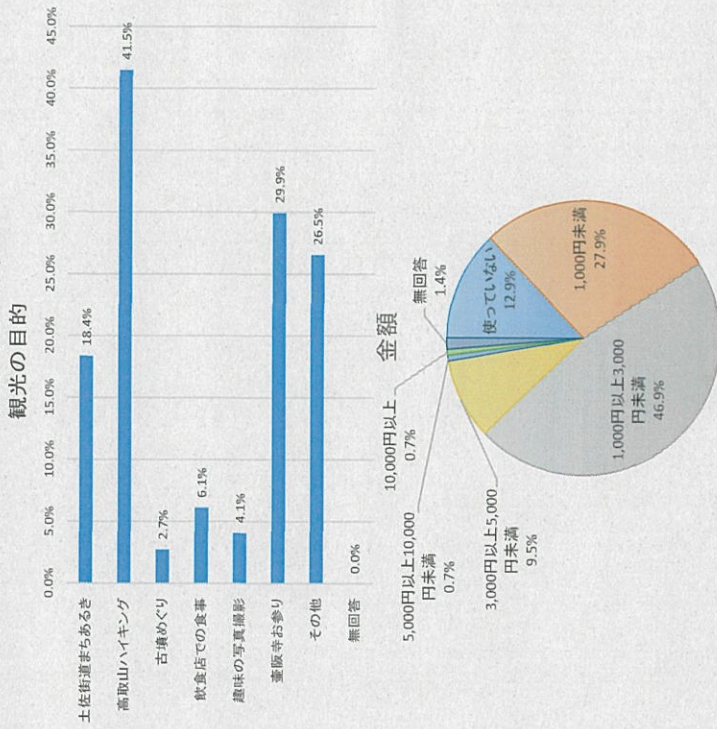
- ・ 明日香村等を目的に来訪し、あわせて高取町へ立ち寄る人が多い。
- ・ 自家用車で来訪する人が半数。

訪れた先、これから訪れる先



### C 滞在内容について

- ・ 観光の目的の上位は高取山ハイキングと壺阪寺参り。
- ・ 町内での利用金額は1000円以下が4割。



### D 高取への要望・今後について

- ・ 観光への要望で食事場所や特産品等を購入する場所を望む意見が多い。
- ・ トイレ、案内サインへの要望が多い。
- ・ まちづくり・おもてなしを評価、今後に期待する声も（自由記述より）。

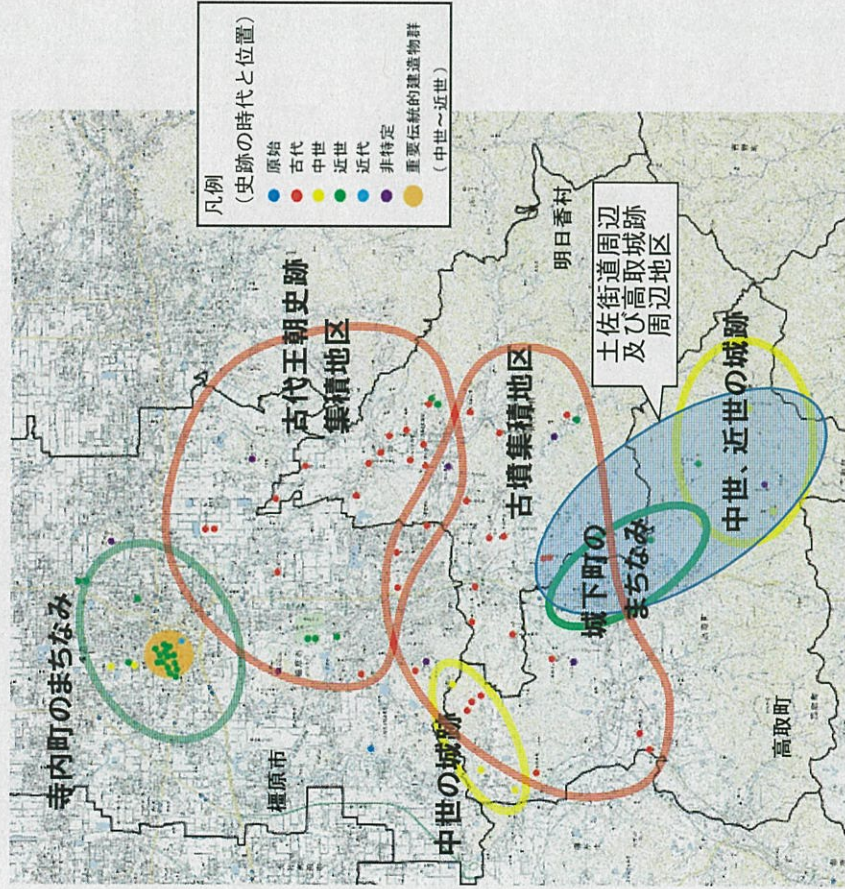
**強み：**観光客のリピーターが多い。

**弱み：**観光客が町内で利用する金額は少額であり、現在のままだと、観光客が増加しても、あまり町に還元されない。

# 1. 高取町の概要

## ■ 高取町とその周辺の主な地域資源

- 高取町の観光資源
  - 町域の北部には古墳群、東部には土佐街道、南東部には高取城跡や壺阪寺等、ほぼ全域に渡り観光資源が分布している。
- 飛鳥地域の主な観光資源
  - 高取町、橿原市、明日香村は古くから一体的な文化圏を形成してきた地域であり、古代王朝関連史跡や古墳、中世の城跡と城下町のまちなみなど様々な時代の史跡が集積する。



〈図 指定文化財の位置と時代〉  
(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

## ■ 歴史・文化

### ■ 高取町の時代における特徴的な出来事

古代古墳、飛鳥、奈良、平安	<p><b>古墳の築造</b>：大陸からの渡来人たちがもたらした文化が栄えた。統一国家発祥の地である飛鳥地方には多くの古墳が築造された。高取町内でも6世紀から7世紀末にかけて築造された古墳は、大小合わせて800基に及ぶと言われる。</p> <p><b>天皇による薬猟</b>：612年、推古天皇が聖徳太子を率いて、高取の羽田（現在の羽内）の山野にて薬猟を行ったと伝えられている。後に高取町が薬のまちとして発展の起源とされる。</p> <p><b>土佐等の地名の由来</b>：6世紀初めごろ、大和朝廷の都造りの労役で地方から召し出されたが、任務を終えても帰郷できなかつた者たちがこの地に住み着いた。町内に残る「土佐」「吉備」等の地名は、彼らの故郷の地名に由来するという。</p>
中近世鎌倉、室町、戦国、江戸	<p><b>高取城ができる</b>：越智氏が高取山上に猛き揚げ城（簡単な城郭）を築く。戦国時代になると、豊臣秀長の命により、高取城が大改修される。江戸時代には、高取城は譜代大名植村氏が藩主となる。土佐街道は城下町として栄える。</p> <p><b>薬売りが活躍</b>：江戸時代には高取の薬の行商人が「大和の薬売り」として全国に売り歩き活躍した。</p> <p><b>天誅組に大砲で反撃</b>：江戸末期、天誅組により高取城は攻撃を受けるが、大砲による反撃等もあり天誅組は敗退。大砲のレプリカのみ展示や、烏ヶ峰古戦場の碑が町内に残る。</p>
近代 明治、大正、昭和	<p><b>高取城の天守閣など取り壊し</b>：廃藩置県で奈良県高取町に。高取城の天守閣などの建物が取り壊される。</p> <p><b>薬産業が県の重要産業に</b>：大正時代、高取薬業会が設立される。県の重要産業となる。</p> <p><b>俳人 阿波野青畝活躍</b>：高取町出身の俳人、阿波野青畝（あわのせいほ、1899-1992年）が活躍。高取町内にも夢創館ポケットパークや阿波野青畝の生家など5箇所に句碑がある。</p>

強み：古代から現代までの様々な歴史・文化資源が点在する。  
古くから飛鳥地域として、一体的な文化圏を形成する地域。